



2015.12.25

6月から始まったにじいろ教室も、全クラスがそろって活動が始まり、早半年が経ちました。当初少なめだった参加者も、陶芸8名・ダンス6名・お菓子7名となり、それぞれの教室がにぎやかに活動しています。

子どもたちは、1か月に1度出会うお友だちに、はじめこそドキドキした様子だったものの、すっかり馴染みの仲間という雰囲気、道具の貸し借りをはじめ「運動会いつだった?」「何のゲームが好き?」など会話も弾んでいます。時には「こうやるんだよ」と高学年のお友だちから低学年のお友だちへアドバイスがあったり、「4年生だから1番(にどうぞ)」と年上を優先させるなど、異年齢ならではの交流も見られます。

最近の教室の様子をご紹介します。

【陶芸】

11月の活動では、2016年の干支、サルの土鈴を作成しました。

普段はどちらかというと個人作業でそれぞれが自分のペースで制作していることが多いのですが、この日は先生の斉指示のもとみんなで挑戦しました。

色つきの粘土を順番に丸めたり、くっつけたり、ひっかいて“毛”のもようをつけたり…子どもたちは作りかけの作品を見せ合いながら完成させました。

この他陶芸クラスでは、小皿・カップ&ソーサー・スタンプ模様の皿などを作成しています。子どもたちの作業は、粘土を伸ばし、型紙をあてて形を作り出したり、模様や飾りをくっつけたり、釉薬(絵具)にくぐらせて色付けを行います。手先の使い方を工夫したり、道具の使い方を覚えたり、また、子どもたちはそれぞれのペースに合わせた作業を行って、徐々にお友だち同士を認め合うような姿があります。



【ダンス】

ダンス教室で定番になっている活動は「まねっこ」です。まずは先生の動きを模倣していき、今度はお友だち…順番に真似たり真似られたりしながら、部屋中を駆けまわっています。

そんな中、まだ暖かかった10月には、センター2階のテラスに出て、外の風を感じながら体を動かしました。先生の「ここから何が見える？」の声掛けで一斉に外を見渡し、見えた景色の中から「木になってみよう」あるいは「ぼくは葉っぱ！」とそれぞれ対象を体で表現するという試みでした。子どもたちは小さいけれどたくましい手足をぐんと伸ばしながら、楽しげにポーズを見せ合いました。最後にはみんなで木を表現！これは、子どもたちが自分たちではじめた合体作品でした。

お互いを見合って、相手の動きを実際に自分でやってみることで、相手の気持ちや考えに触れる機会を得られます。また、「ダンスに正解はない」と講師の尾花先生は言います。子どもたちにとってそれぞれ自分をありのまま表現して、めいっぱい体を動かす中で、お互いを認め合うことができる時間になっています。



【お菓子】

お菓子教室はほかの教室に比べると、みんなで1つのものを完成させるため、「協力すること」が一番求められるグループなのかもしれません。

キッチンの作業台をみんなでぐるっと囲んだら、先生の斉指示のもと役割分担をして、てきぱきと作業を進めます。10月は参加者のご家族のお誕生日ということもあり、カップの中にクリームやフルーツを飾ってデコレーションケーキを作りました。材料をまぜて生地を作ったり、生クリームをホイップしたり…出来上がった後は、お片付けも自分たちで、と高学年も低学年も交じって皿洗いやテーブルふきなど、作る時から食べる時まで、それぞれが役割を持って活動に参加しています。時には取り合いもありますが、「10で交代ね！」とお友だちと順番に混ぜたりと、譲り合えるようお友だち同士工夫している姿に、子どもたちの力を感じました。

1時間という短い活動時間をめいっぱい使って、活動の最後にはお迎えのご家族の皆様を交えて試食会をするのが定番となっています。(ご参加の皆様、いつもご協力ありがとうございます。)

